

2020年1月  
1161号

# 百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

## ザ・ブランドローリエ・ブランド ICON 賞を受賞

～海の向こうからエールをもらう 1月櫻華塾～

令和になって初めてのお正月を迎え、皆々様も新しい気持ちで大切な1年をそれぞれスタートしたことと思います。晴天に恵まれた1月19日、尾崎行雄記念財団応接室で1月度櫻華塾を行いました。松の内も明けておりましたが今年初めて会うメンバーも多く、新年を迎えた事を喜びあい、それぞれ今年の抱負を発表いたしました。

### ベートーベン「喜びの歌」合唱(佐藤玉美一冊の会広報親善大使)

耳が不自由であったベートーベン。今年、生誕250周年を迎えます。彼の9番目にして最後の交響曲である交響曲第9番の初演の際、演奏がいつ終わったのか、聴衆から巻き起こった割れんばかりの拍手も彼には聞こえませんでした。しかし、この“第九”には特別な力が宿っています。

“第九”はナチス政権下のヒトラーの生誕祭、アメリカ連合国の勝利を願うチャリティーコンサート、ドイツのベルリンの壁崩壊の祝賀コンサートで演奏されています。このことは、“第九”が『宗教・国家・言語・そして音楽をも超越した素晴らしさがある』ということを表しています。

2011年3月11日の東北関東大震災の際、日本国中がコンサートなどの開催が中止されるなど自粛モードの中、来日ツアー中であったスーピンメータも、フィレンツェ市長の帰国命令によりツアー半ばで中止を余儀無くされました。しかし、翌月4月10日上野文化会館でNHK交響楽団の演奏で“第九”を指揮したのです。“第九”の演奏に先立ち、震災犠牲者への黙祷が行われ、バッハのG線上のアリアが演奏されました。演奏後の拍手はしないようにと事前にスーピンメータから始めにスピーチがありました。“第九”の演奏が始まり、歓喜の歌へ。演奏後には、割れんばかりスタンディングオーベーションの拍手の嵐であったといえます。私たちも新年の喜びと、2021年のFAWAに向けて想いを乗せて歓喜の歌を歌い上げましょう！

一同立ち上がり想いを一つに大きな声で合唱いたしました。新年1回目の櫻華塾を、本日の青く澄み渡る空のように真っ直ぐ晴れやかな気持ちでスタートする事が出来ました。

### 国際シンポジウム「核兵器と半人道罪のない世界へ」に参加して(ト部さん)

去る令和元年12月15日に国際シンポジウム「核兵器と反人道罪のない世界へ」が、広島市中区の広島国際会議場で開催されました。広島市立大学、中国新聞社の主催により、海外の紛争地で続く深刻な人権侵害と、核兵器の保有・使用を巡る問題について、いずれも「人道性」という観点から議論したシンポジウムでした。正直に申して、その中の講演内容には幾つもの専門用語が飛び交い、今の私には殆ど理解できませんでした。櫻華塾と同日ということもあり、東京に来る代わりにここで核兵器廃絶に関する講演を聴く為に足を運んでいるにも関わらず理解ができないほど自分の勉強不足と至らなさを痛感しました。誠に申し訳ございません。ですが、その中で【出来ること】として会場内にある配布資料は全て持ち帰りました。その中のひとつに広島市立大学平和研究所発行の本があり、最後の残り一冊ということで持ち帰りました。まだ全ては拝読できておりませんが櫻華塾の皆様と共に学ぶにあたり資料の一部になれば、と思いましたので寄贈致します。何かの折にお役立て頂けると幸いです。



## FAWA(アジア太平洋女性連盟)の進捗(三坂 FAWA 事務局長)

補助金の申請については先月お伝えした通り、国際交流基金への助成申請を済ませ4月の結果を待つばかりです。次は会場を3月までに決定したいと思い、色々な会場を見て回っているところです。FAWAの趣旨を説明することで賛同して下さる企業家の方もいらっしゃいました。今は家でいえば土台を作っている所ですので、これから建てるという時には皆様の力を広くお借りいたしますのでよろしくお願ひします。

### 大槻会長のお話

World Brands Foundation からザ・ブランドローリエ・ブランド ICON リーダーシップ賞「10年間ブランドを築いた人に贈られる賞」を贈られ、昨年12月17日にマレーシアで表彰式がありました。不勉強ながら、世の中にどういう賞があってどのような価値があるかなど存じていなかったもので、周囲に相談いたしました。石田理事長が心配して色々調べてくださり、本当にありがとうございました。授賞式の会場に着くと、4M位の幅の赤絨毯がひいてあり、会場に入るとなんと私の大きな写真が飾られていてびっくりしました。一冊の会の強さは継続していることにあります。30歳から今までの55年が走馬灯のように思い出されました。私の肩書きはFAWA会長になっていました。来年のFAWA総会の大成功をますます誓いました。今、三坂さんが頑張り運営委員が頑張ってくれていますが、これから全会員の力が必要になります。また、日本中にFAWAは世界のFAWAだと、その原点・精神的基礎を築いたのは相馬雪香先生だと伝えていく使命が一冊の会にはあります。



財団のホームページから

1月17日で阪神淡路大震災から25年経ちました。当時、子ども達を小学校に集めたが遊びの道具がない、とSOSの電話を頂きました。存じ上げない方だったのですが、一冊の会を頼ってとのこと。私と小山さんと中学生代表とで、両手に持ちきれない程の鉛筆と本を担いで行きました。(万葉第2号62ページ参照)

今年皆様にお出しした年賀状のデザインは、小早川さん(旧姓河野さん)のご主人がデザインしてくださいました。ご結婚されたと聞きおめでとうございますと言ったか言わずかのうちに、ご主人の助力を一冊の会にいただき大変感謝しております。本当にありがとう、そしておめでとうございます。(一同拍手)また宛名書きを4人の方にお手伝い頂き、何とか皆様に賀状を差し上げることができました。

### 石田理事長から

大槻会長、ブランドICONリーダシップ賞の受賞おめでとうございます。しかし、会長一人の力のみでは今日の受賞には至らなかったでしょう。55年間の継続を可能にしてきた諸先輩方をはじめ、ここに集まる皆さんに贈られた賞でもあります。諸先輩方の功績・ご厚労をしっかり継承し、それを次世代に繋いでいくことが、我々一冊の会のひとりひとりに課せられた使命ではないでしょうか。そのためには、ここで何を学んでいるのか、そのことで社会にどのように貢献していきたいのか、何故ここ一冊の会でなければいけないのか…各々考えて意識をもう一度引き締めましょう。

よく、何か賞を受賞すると「格」が上がるとか下がるという話があるが、受賞によって格が左右されるような会ではありません。マレーシアという海を越えた場所から日本の一冊の会を応援してくれている、頑張っ下さいねと贈られたと捉えています。受賞して我々がどうするか、ここからが始まりです。2021年のFAWAを我々が使命をもって成功させ、さらに発展させましょう。力強さと一致団結力が成功へ導きます。それこそが一冊の会です。資金調達が目標より下回ることもあるかもしれませんが、その時は今あるお金の中で我々の身の丈にあった会場で団結していけば良い。よくテレビに映る受賞中継のような、煌びやかな豪華シャンデリアや赤絨毯のあるホテルは我々には必要無い。そのようなものが無くても成功に導くことができる、これが一冊の会の良いところです。

今年2020年は第1回帝国議会召集(明治23年/1890年)の130周年節目の年であり、我々もだが、政治家達にも、尾崎行雄を思い起こして欲しい。60年7ヶ月国会議員に籍を置いた尾崎が現役時代かかげてきたのは「国の存続と国民の平和を保つ為に私心を捨て利他の心で議会政治を行うこと」。尾崎の利他の心は、相馬雪香に引き継がれています。我々もまずはFAWAに向け、真に困っている人の声なき声に応えるにはどうしたらよいか本気で考え、取り組みましょう。その姿勢こそが人の心を動かすのです。



ザ・ブランドローリエ・ブランドICONの賞状を囲んで

文責：赤田万葉編集担当・研究員、小早川、卜部